

大連における日本人コミュニティの諸相 —80年代以降を中心に—

林 楽青、西尾 林太郎、孫 連花

日露戦争後、大連に多くの日本からの移民がやってきた。第二次世界大戦中、日本は「100 万戸農村移民」政策を打ち出した。こうして敗戦の 1945 年には、在連の日本人の数は 20 万を超えた。戦後はどうか。1978 年に始まった改革開放から 2011 年末に至るまで、大連に進出した日系企業は 4,443 社に達した。現在、長期滞在と短期来連の日本人数は年間 50 万人を越えている。

1983 年に創立された大連日本商工クラブを始め、経済、文化、サークル、スポーツなど各分野に成立した日本人コミュニティは既に 145 となった。企業進出に伴う国境を越えるネットワークが形成されると同時に、移動する日本人たちが作り出した社会空間には、日本国内社会では考えられない経済・政治・社会文化・生活環境などが生み出された。異国の地元住民と共存・競争しながら展開する日本人コミュニティの実態を解明することは日中両国民にとって大変興味深い課題である。本研究は大連にある日本人コミュニティの現状及びその活動内容を調査し、その実態を明らかにするものである。

はじめに

19 世紀末および 20 世紀初頭の日清戦争と日露戦争で有名になった大連市は改革開放政策の最前線に立ち、日本と密接な関係を持っている。2011 年 12 月現在、ビジネス、留学及び家族滞在（国際結婚を含む）などで大連に滞在する日本人は 6 千人余りで、この年に大連を訪れた日本人観光客は 51 万人にも達した¹⁾。中国における日本独資企業第一号である萬宝至馬達（大連）有限公司²⁾始め、今日まで大連に進出した日系企業は既に 4,308 社にのぼった³⁾。

経済発展に伴い大連在住の日本人の数が増えると共に、日本人コミュニティの発展も顕著となる。大連の日系企業の駐在社員以外に、現地採用の日本人、中国市場を狙ったビジネスを展開する日本人などが様々な形で大連に暮らしている。こういった「越境」日本人による社会形態の一つである日本人コミュニティは 1980 年代初頭から今日まで、中国各地で組織化され、そのネットワーク社会はほぼ完成の域に達しつつある。大連に在住する日本人はこのネットワークを公私両面で利用している。すなわち、それは情報収集や相互扶助さらにビジネスの展開などにそれなりに大きい役割を果たしている。一方、それらは地元の住民と円滑な交流を行う共に、自分のアイデンティティの形成を促進させている。

我々は大連市の日本人コミュニティについて調査し、本研究でその一部を紹介したいと考える。なお、大連市についてこの様な調査・研究はない。

1. 調査背景

(1) 大連の歴史

大連は元々日本と関係の深い都市である。

大連は“青泥窪”という漁村で、19世紀末日清戦争で日本が占領し、清朝政府によりここを含む遼東半島が日本に割譲されたが、三国干渉により中国に返還された。その後まもなく、1898年にロシアが清朝からその地を租借し、港と市街地を建設して改めて達里尼（ダーリニ）特別市と名付けた。港は自由貿易港として発展した。また、同時にロシアは旅順を軍港として租借した。

1904年日露戦争が勃発した。一年あまりのこの戦争の結果、ロシアが日本に破れ、日本はこの地を占領し、1905年2月11日の紀元節に達里尼特別市を大連市と命名し、軍政処（後の関東州総督府）を設置した。戦後、ポーツマス条約により、日本はこの占領地をそのまま受け継ぎ、1906年に関東州と名付け、統治した。旅順に関東都督府が置かれ、1907年には、南満州鉄道（満鉄）本社が東京から大連に移された。

大連は当初ロシアの建設により出発したが、間もなく日本は引き続いて大規模な建設を行った。ヨーロッパ風な都市を建設し、美しい大連を作り上げた。また、日露戦争に功績のあった将軍や日本の植物の名を町名に使った。大連港は中国東北の農産物（大豆やトウモロコシなど）や、石油、石炭、木材など原材料の積み出し港として施設が整備された。さらにその後地元の産業は軽工業から車両・機械・化学工業にまで発展し、大連はその輸出港として、また中国東北地方への侵略拠点として発展してきた。

日本の敗戦の1945年に調印され中ソ友好条約により、大連・旅順地区は旧ソ連が租借し、中国政府との共同管理となった。大連市の市政は中国側が担当したが旅順港の使用権は旧ソ連が握り、大連港は国際自由港になった。中国人民政府は旧ソ連による軍政を間接的に管理し、国民党と共産党の両方の活動が許されたが、1946年2月より東北部で内戦が始まった。

(2) 在連日本人数の変化

大連市の人口は日露戦争直後の1906年における18,872人から20年後の1926年（昭和元年）には7万8000人にまで増加した。敗戦の1945年の時点では大連市総人口は80万人に膨れ上がった。この時、日本人の数は全体の四分の一を占めた。それは満州事件（9.18）後、日本政府は満州国への支配強化と日本国内の農村の窮乏化防止対策の一環として、移民政策を実施したためである。1932年から35年にかけて4回の農民移民を行い、1936年8月には「満州国農業移民100万戸移住企画案」⁴⁾を決定して、1936年以降の20年間に100万戸500万人の移住計画を立てた。

表1に示すように、日露戦争翌年(1906年)の大連市総人口は18,872人で、その内の日本人は8,248人であった。1906年から1915年まで日本人の数は34,563人まで増え、総人口の4割強を占めた。1920年から1935年まで、大連在住の日本人数は50,778人から134,329人まで増加し、総人口の3割強を持続したが、1940年代から終戦の45年にかけて日本人占有率は2割まで落ち込んでいた⁵⁾。それでも1906年末から42年までの36年間で、在連の日本人数は23倍に増加した。

近年すなわち 2001 年から 2010 年までの十年間に、大連市の人口と在連日本人口を比較してみると、2001 年における大連市総人口は 554 万 6000 人で、2010 年までの 10 年間で 31.8 万人の増加をみた。その増加率は 5.7%である。2001 年の在連日本人数は 1,863 人、10 年後の 2010 年には 6,151 人に増えた。その増加率は 230.2%である。また、大連の外国観光客数の 10 年間の変化はどうか。2001 年外国人の観光客数は 43.3 万人であったのに対し、2010 年には 118 万人まで増加し、2.7 倍になった。その内、日本人観光客の数も 2001 年の 19.6 万人から 51.5 万人まで増えた。1.6 倍の増加である。日本人の増加率は総数の増加率とほぼ変わらないが、在連日本人と来連日本人観光客の数と合わせてみると、大連市総人口の 1 割弱を占めることが判明する。この点については表 2 を参照されたい。

(3) 在連の日系企業

大連市は国家より 1984 年に「沿海開放都市」⁶⁾の一つに指定され、翌年には「計画単列都市」⁷⁾として認可され、東北地方において最も早く市場経済化に取り組んだ都市である。また、中国東北部で最大の工業生産地を持つ重工業都市で、造船、石油化学工業、工作機械製造、電子情報産業の拠点であり、中国最大の港湾・航空貨物輸送基地である。

表 1. 1906 年—1942 年大連市人口総数と日本人数の比較

内容 \ 年代	1906 年末	1915 年末	1920 年末	1929 年末	1935 年末	1940 年末	1942 年末
人口総数	18,872	77,184	145,968	258,793	362,808	590,857	826,907
内日本人	8,248	34,563	50,778	88793	134,329	175,483	192,558
日本人の割合	43.7%	44.8%	34.8%	34.3%	37.0%	29.7%	23.3%

(資料出所：1906—1935 年末のデータは井上謙三郎『大連市史』、大連市役所、1936 年；1940 年末のデータは『昭和十六年度版 関東州満人商工案内』泰東日報社、「付録」p6-7；1942 年末のデータは『関東局管内現住人口統計』関東局編、昭和十八年[1944 年]、p6-7)

1984 年に始まった経済技術開発区の建設と共に、外資の進出も本格化した。1989 年に中国進出の日本単独出資、中国第一号の企業を始め、1992 年にスタートした日中初の合弁工業団地である「日中合弁大連工業団地プロジェクト」など、日系企業の大連進出が次々と実現した。日本企業の大連進出の全体図を見ると、四つの段階に分けられる⁸⁾。

①調査・打診期(1979～1983 年) この時期は中国文化大革命の終了直後にあたり、国交正常化を実現しても、中国の情報が不足した時期であった。日本企業は中国の状況を把握するため、現地での情報収集が不可欠となった。こうした時期に、1983 年 6 月に大連日本商工クラブ⁹⁾が設立された。

②初期発展期(1984～1989 年) 日本の製造メーカーが中国で低コスト生産に惹かれ、大連市経済技術開発区に集中的に進出した。

③低迷期(1989～1991 年) 90 年代に始まった日本のバブル経済崩壊の影響により、海外への投資がこの時期に減少した。ちなみに 1989 年から 1991 年まで大連の日本企業の投資件数は僅か 232 件であった¹⁰⁾。

④高度成長期(1992 年～) 日本の円高などの影響で日本企業の海外進出がブームになった。

この時期、大連に進出した日系企業の数には毎年三桁の数字を数えるにまで膨らんだ。特に、1998年から2008年の10年間で日本企業の契約ベースは2,693件に達し、それは1979年以降の日系企業投資契約ベース総数のほぼ7割を占める¹¹⁾。

表2：2001 - 2010年大連人口と在連日本人口と外交国観光客数と日本人観光客数との比較（単位：万人）

内容 \ 年代	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
人口総数	554.6	557.9	560.2	561.6	565.3	572.1	578.2	583.4	584.8	586.4
内日本人	0.1863	0.2002	0.2312	0.2823	0.3145	0.4020	0.4123	0.4868	0.5427	0.6151
日本人の割合	0.03%	0.04%	0.04%	0.05%	0.06%	0.07%	0.07%	0.08%	0.09%	0.10%
外国人観光客	43.3	41.9	31.9	45.6	52.5	61.6	75.0	85.6	94.7	118.0
内日本人	19.6	23.4	17.6	27.2	30.3	34.4	41.1	46.8	56.0	51.5
日本人の割合	45.27%	55.85%	55.17%	59.65%	57.71%	55.84%	54.80%	54.67%	59.13%	43.64%

（資料出所：日本貿易振興機構（ジェトロ）大連事務所内部資料『大連市概況』2009年、2012年；日本国駐瀋陽総領事館在大連出張駐在官事務所内部資料）

2. 大連の日本人コミュニティ

1で述べたような日本企業の大連進出及びグローバル化による日本人の海外大移動で、大連に在住する日本人の数は年々増えている。80年代初期に国境を越えた日本人によるネットワークが形成されて以来、今日に至るまで、大連で形成され現在に至っている日本人コミュニティは145を数える。われわれは、2011年10月から今年の10月までの一年間、日本人コミュニティの実態を、インタビューにより調査した。

（1）日本人コミュニティの類型¹²⁾

2012年8月末までに、大連市にある日本人コミュニティの数は145となった¹³⁾。これらのコミュニティ団体は地元政府に登録手続きを行っていないので、いずれも草の根の団体である。本研究はこれら団体の活動内容に着眼し、これらのコミュニティを2つのカテゴリーに分類する。

① 県人会型

日系企業の大連進出の一環とする現時情報収集の役目である大連日本商工クラブは1983年6月に創立された。その後、国家機関、地方自治体、中央銀行、地方銀行（地方自治体代理機能もある）などが大連に現地駐在事務所を設立した¹⁴⁾。まずこうした現地所員を中心とした県人会が結成され、その後、日本の各地から来た人々が自発的に県人会を立ち上げて行った。その数は現時点(2012年10月)で34にのぼっている。47都道府県の8割以上が県人会を持っていることになる。その県人会のメンバーは地方自治体駐在事務所員、銀行駐在事務所員、日系企業駐在事務所員、日本人ビジネスマン、現地日本人起業家、現地採用の日本人社員、現地の大学等教育機関の教員、日本人留学生、ならびにそれらの家族さらに加えて日本で留学や仕事をした経験を持つ中国人などである。

県人会の活動は歓送迎会などの宴会、忘年会・新年会及びゴルフコンペなど会員相互の懇親会を主な活動内容としている。活動の頻度は年に何回か或いは何ヶ月に一回というのが多いが、毎月一回の頻度でやっている県人会もある。会費の代わりに毎回の活動にかかる費用は「現場実費」と呼ばれる。

県人会に類似するコミュニティのもう一つは同窓会である。会員構成や活動内容および活動頻度などは県人会とほぼ同じである。このような大学の同窓会が 15 ある。

表3 在連日本人コミュニティの類型表

	県人会型		同好会型								合計
	県人会	同窓会	運動系	文芸系	音楽系	交流系	暮らし系	飲食系	経済系	日本人限定系	
団体数	34	15	31	16	9	12	8	7	4	9	145
比率	23.4%	10.3%	21.4%	11.0%	6.2%	8.3%	5.5%	4.8%	2.8%	6.2%	100.0%

県人会（同窓会も含む。以下同）の活動内容をその特性により、以下の三種類に分けてみる。

i ビジネスの補助

県人会の会長は現地日系企業の責任者が多く、会の事務局は自治体の現地駐在事務所の日本人が担当する。県人会の活動を通して、会員所属の企業の宣伝、ビジネス情報の交換、会員同士のビジネス情報の交換を行うことは、その会の主な目的となる。時には、日本の自治体の地元企業の経済ミッションに合わせた県人会活動を行ったり、大連をはじめ中国各地の地元日系企業へのフォローをしたりする。例えば、“北海道県人会”、“新潟県人会”、“福岡県人会”などがこうした点で熱心であるようである。

ii 自治体の宣伝

県人会の会長は地方自治体の駐在事務所の責任者であることがほとんどで、その事務室はその自治体の駐在事務所に置かれている。自治体の宣伝、観光誘致、地元の産業や企業の宣伝や広報活動を行っている。同時に、日本の自治体と中国の地方政府との交流窓口の役割も果たしている。例えば、“大連ちゃちゃ会”（北九州市）、“奈良県人会”などがそうした例である。

iii 地元日本人間の交流

駐在事務所と全く関係なく、大連在住の日本人が自発的に出身地域の関係者で結成した県人もある。活動の内容は定期的な懇親会の開催が中心で、日本人同士の懇親や情報交換そして中国人との交流を目的とする。特にこれらの団体は現地日本人の生活全般についての応援に大きな役割を果たしている。例えば、“大連沖繩県人会”、“なにわの会”、“三重県人会”などはその一例である。

②同好会型

地縁による県人会と違って、個人の趣味によって集まる日本人コミュニティは同好会型である。スポーツ、音楽、文芸、仲間造り、日常生活、グルメ、ビジネスなどの分野における団体を合わせるとその数は 96 にもなる。

これらの県人会の活動内容により、以下の 8 種類に分けることができる。

I 運動系

活動内容が運動に関する日本人コミュニティは 31 あり、同好会型の中でもっとも多い。現地駐在の日本人は自分の趣味を生かし、日本人や地元の中国人と共同して活動を行う。活動内容の特性により、それは 2 種類に分けられる。

i 日本人中心型

活動の内容は日本特有のスポーツ或いは日本国民に普及している運動で、中国ではあまり普及していないため、参加する会員はほぼ日本人に限定されている。例えば、“大連剣友会”は剣道を習ったことがある日本人が中心で、地元の中国人参加者は少ない¹⁵⁾。野球もそうで、日本で人気のあるスポーツである野球を中国でやる人は極めて少ない。2003年7月に創立された“大連野球連盟”は、当初在連日本人で結成された野球チームの練習試合という形で始まった。「当時の大連には中国人野球チームはなく野球自体も知っている中国人もほとんどいなかった。現在、大連野球リーグ戦に参加しているのは12チームであるが、日本人の選手がほとんど」¹⁶⁾という。同様にパラグライダー、ラグビーやゴルフのように、日本では結構人気があり、競技人口も多いスポーツだが、大連でやっている中国人は殆どいないため、現地の日本人で結成され、運営される日本人コミュニティもある。例えば、“大連パラグライダー同好会”、“ラグビークラブ”、“大連72クラブ”、“安全ma”、“ロボ会”などである。

ii 交流型

スポーツを通して、現地の日本人同士だけではなく、地元の中国人と交流する目的でできた日本人コミュニティ団体である。活動内容は中国で人気があるかは普及しているスポーツの団体である。例えば、“味処喜兆釣り懇親会”、“釣り愛好会「酒菜の会」”、“アカシアテニスクラブ”、“NGK バレーボール部”、“大連バスケット部”、“稲田屋バド部”、“黒馬バドミントンクラブ”、“ランニング同好会”、“チームアジアランニングクラブ”などである。

現地の日本人をチームメンバーとし、普段自分で楽しむとともに現地中国人のチームと親善試合を行おうとする日本人コミュニティ団体もある。スポーツで地元の中国人チームと交流するのが目的である。例えば、“サッカークラブ・チーム YAMATO”、“サッカークラブ行雲 FC”、“サッカークラブ大連海神 FC”、“大連卓球同好会”、“大連台球クラブ「☆必利亜都☆」”¹⁷⁾などである。

II 文芸系

文化を中心とする日本人コミュニティは15ある。この中に団体の特性から見れば、5種類に分けられる。i 日本独自の文化を宣伝する為、日本人の教師(或いは専門家)の指導を中心とする団体である。例えば、“茶道裏千家大連同好会”(茶道)、“大連池坊同好会”(生け花)、“未生流生花教室”、“大連きもの小町”、“競馬を楽しむ会”¹⁸⁾などである。ii 中国独特な文化を習うため、中国人の教師(専門家)に稽古をつけてもらう日本人同士のグループである。例えば、“大連麒麟会”(京劇)、“大連あるふうの会”(二胡)、“大連カルチャー研究会”(中国手芸、中国茶など)である。iii 日中両国間で共通する文芸・文化の交流である。例えば、将棋や囲碁の“将棋・象棋交流会”¹⁹⁾、“碁悦同舟会”などである。iv 中国語と日本語の学習・教授を目的とする日本人の団体である。例えば、“中国語の練習会”、“大連日本語教師会”などである。v 西洋の手芸やゲームを楽しむ日本人仲間の集まりである。例えば、“IFA CHINA”(プリザーブドフラワー)、“大連テーブルゲームの会”(カタン、ドミニオン等)などである。

III 音楽系

音楽を趣味とする日本人集まりのコミュニティは9ある。音楽系の日本人コミュニティを楽器演奏会と歌う会とダンスなどを3種類に分けられる。“Club future 09”、“大連国際音楽クラ

ブ”、“カリメロナイト in 大連”、“大連バンドの会”、“BAMBINO”などの日本人コミュニティは地元の中国人と一緒に作った楽器演奏団体である。また、“歌声サロン”、“大連中日友好の声合唱団”、“カラオケ同好会”などのコミュニティは日本人が作った団体であるが現在では地元の中国人の会員も多い。“大連サルサダンス”はダンスに興味を持っている日本人と中国人の仲間同士の団体である。

iv 仲間作り系

地元の中国人と交流する目的とする日本人コミュニティは12ある。地元の社会に溶け込み、地元の情報を入手し、自分の言語能力を高めるなどの目的でできた団体である。そのコミュニティの名称に注目したい。「中日」のような国の名前をつけたものが3団体（巻末の一覧表の番号で108、111、113、以下同じ）ある。「日中韓」は大連における韓国企業の駐在員や韓国系大連市民の多さを反映している。「大連」という地名を強調するのは4団体、大連市内にあるエリアに限定するのも1団体(109)である。旅行などの趣味に限定するのは2団体(114、115)、交流相手を限定するのは同じく2団体(118、119)、宗教関係は1団体(116)である²⁰⁾。

v 暮らし系

日常生活を中心とする日本人コミュニティは6ある。こちらの団体の主体は女性である。日本駐在員の滞在家族として、異国での生活に慣れないし家族同士の交流が必要となる。家族間の懇親と助け合い、情報交換などが目的である。例えば、“大連小朋友の会”、“サークル歓迎組”、“大連ペットの会”、“野良猫・犬愛護の会”などである。国際結婚をして大連に住む日本人を対象に、または日本人の子供の教育のために地元の社会を理解し溶け込む目的で、地元の中国人との交流が行われている。例えば、“中日親子交流会”、“ホンシュエの会”²¹⁾などがその担い手である。大連で働いている女性を対象とする、女性同士のコミュニティもある。例えば、“働く女性の会”、“大連美的会”などである。

vi グルメ

懐かしく“恋しい”日本料理と美味の中華料理を好む日本人でできた料理に関する日本人コミュニティは7つある。滞在中の日本人は平日の食事が中華料理である。大連で値段が高い日本料理を食べるのは、金銭面を考えるよりむしろ仲間同士の情報交換のためであり、懇親のための食事会だと言えよう。例えば、“すし60元食べ放題の会”²²⁾、“すし食いねえ！！の会”などである。お酒が好きな日本人は好きなお酒以外を飲まないという規則による集まりもある。例えば、“日本酒愛好会”、“紹興酒の会”などである。料理が好きな人たちでどんな料理でも構わないが、食べながらの情報交換と懇親のための会もある。例えば、“康派会”、“美食倶楽部”などである。“康派”は住宅団地の名前である。この住宅団地に住んでいる日本人有志の集まりである。

vii 経済系

ビジネスやマネーに関心を持っている人たちでできた日本人コミュニティは4つある。現地採用の応援を行う団体の“現地採用を応援する会”、中国経済高度成長期での不動産ブームに関心を持っている日本人の集まりである“大連不動産投資”、また資産運用に関する日本人仲間の集まりの“資産運用志隊”とビジネスの成功を目指す日本人の団体“世界成功クラブ”などもある。

viii 日本人限定系

日本人だけの会は9つある。会員は在連日本人に限られ、会員のためにサービスを提供する会がある。例えば、“大連日本商工会”である。日系企業の法人会員と日本人個人会員とから成る。大連日本商工会は定期的に例会を行い、情報提供や勉強会を実施する。また、日本から芸術家、芸能人などを招き、イベントを行い、時には大連の各行政機関への在連日本人の窓口の役割を果たす。大連滞在の日本婦人の集まりである“大連リラ会”は年に2回ほど販売会を催し、その収益の一部を貧しい大連の高校生を支援する活動を行うなど、社会貢献を目指す会である。また、同年生まれの駐在日本人の集まりで、定期的実施される食事会を通じて情報交換と相互援助を目的とする団体がある。例えば、“74年会虎の会”、“大連82・83年犬と猪の会”、“88年の会”、“青春91、92年会”、“大連91年の会”などである。

3. おわりに

大連の日本人コミュニティは20世紀初頭の「関東州」時代から既に存在していた。戦後の1980年代はじめに、日本企業の進出に伴って日本人コミュニティが発足してから、現在ではその数は140以上となった。この140余りの日本人コミュニティ活動を調べると、異国にいる日本人がコミュニティを通じて、情報交換と相互扶助を目的として結成された団体が最も多い。また、スポーツと文化などの分野において、日本独自のモノを紹介するとともに、中国独自のモノを学習し、相互の文化を理解し、共存させようとするものもある。活動内容から見れば、スポーツ系と文化系のコミュニティはそれに関連する活動で日本人同士だけでなく、地元の中国人とも交流を行っている。県人会、同窓会と「同年生まれ」などのコミュニティは主に食事という形で、交流や情報交換などの機会を提供している。内容に拘らず話し合いの形で現地の中国人と交流し、国際交流の輪を広げている。

一方、日本人だけに限定しているコミュニティは異国でも自分のアイデンティティを維持しながら、地元の社会に溶け込もうとする動きも見えてきた。団体として地元大連の社会貢献を続けている。在連の日本人コミュニティは、異国の仕事にも生活にも欠かせない日常生活の一部分となっている。コミュニティ活動に参加し、地元の中国人との交流を通じて、現地社会に溶け込むことは、自らの駐在生活或いは留学生生活を大いに有意義にするであろう。

しかし、在連日本人コミュニティの会員は駐在員が主流で、駐在期間を終え、帰国した場合、もはや会員でなくなるケースも多い。また、民間団体に対する中国の法律上の規制は日本よりかなり厳しく、複雑である。中国地元の民間団体ですら許可がおりることは少なく、特に外国人団体に公式な許可がおりることは現実には無いであろう。大連にある日本人コミュニティの多くはまさに草の根という組織として、組織の管理と運営などはおろか、むしろ存在自体だけで四苦八苦という状態にある。

グローバル化と日本経済の不況により、外国で現地採用される日本人も年々増えつつある。外国で日本人としての生活続ける場合、自分のアイデンティティをどのように維持するのかが問題となろう。日本人は中国特に大連において日本人コミュニティに加わりながら、日本人としてのアイデンティティをどのように維持しているのか。日本人を中心とする外国のコミュニティの現状とその社会的役割などについて、今後も研究を進めていきたい。

大連市にある日本人コミュニティ団体名一覧表 (2012年8月現在)

No	団体名	No	団体名	No	団体名
1	大連神奈川県人会	49	富山大学大連会	97	Club Future 09
2	大連ちゃちゃ会(北九州市)	50	大連剣友会	98	大連国際音楽クラブ
3	大連新潟県人会	51	大連野球連盟『大連 Cat's』	99	カリメロナイト in 大連
4	大連富山企業会	52	windy 大連(大連少年野球チーム)	100	大連バンドの会
5	大連岩手県人会	53	暴球隊(スポーツ)	101	BAMBINO
6	大連宮城県人会	54	双啓 IB ギャラクシーズ	102	大連サルサダンス
7	秋田県人会	55	Fortune Works	103	歌声サロン
8	大連岡山県人会	56	DBC(DALIAN BASEBALL CLUB)	104	大連日中友好の声合唱団
9	福岡県人会	57	大連 Cat's	105	カラオケ同好会
10	山口県人会	58	朋友	106	mixi 大連コミュニティ
11	大連北海道人会	59	壮年走攻会	107	大連で友作り隊
12	広島県人会	60	総合格闘技(破着羊皮的狼)	108	大連日中交流会
13	奈良県人会	61	大連パラグライダー同好会	109	大連南山路交流会
14	大連千葉県人会	62	ラグビークラブ「大連 ELKS」	110	中国の若者との交流会
15	大連静岡県人会	63	大連 72 クラブ	111	大連華日クラブ
16	大連群馬県人会	64	安全 ma (ゴルフ)	112	大連アカシア会
17	大連埼玉県人会	65	ロブ会(ゴルフ)	113	大連日中韓国際交流会
18	熊本県人会	66	味処喜兆釣り懇親会	114	コ夏アイランドクラブ倶楽部
19	福島県人会	67	釣り愛好会「酒菜の会」	115	旅の友
20	大連岐阜県人会	68	アカシアテニスクラブ	116	DICF(大連国際教会)
21	大連愛媛県人会	69	NGK バレーボール部	117	☆Rookies☆大連
22	大連徳島県人会	70	大連バスケット部(スポーツ)	118	大連小朋友の会
23	大連沖縄県人会	71	稲田屋バド部	119	働く女性の会
24	三重県人会	72	黒馬バドミントンクラブ	120	日中親子交流会
25	なにわの会(大阪)	73	サッカークラブ・チーム YAMATO	121	ホンシュエの会
26	福島県人会	74	サッカークラブ・行雲 FC	122	サークル歓迎組
27	遼寧がばい会(佐賀)	75	サッカークラブ大連海神 FC	123	大連ペットの会
28	大連京滋の会(京都・滋賀)	76	NHN ST サッカーサークル	124	野良猫・犬愛護の会
29	香川県人会	77	大連卓球同好会	125	大連美的会
30	大連大分県人会	78	大連台球倶楽部『☆必利亜都☆』	126	紹興酒の会
31	大連長野県人会	79	ランニング同好会(チームアカシア大連)	127	康派(カンバイ)会
32	大連東京しってるかい	80	チームアジアランニングクラブ(TARC)大連	128	美食倶楽部
33	大連東海クラブ	81	大連三線の会	129	すし 60 元食べ放題の会
34	県人会が無いかもしれない の県人会	82	アカシアの大連・旬会	130	すし食いねえ!!の会
35	神戸大学同窓会	83	茶道裏千家淡交会大連同好会	131	日本酒愛好会
36	法政大連会	84	大連池坊同好会	132	大連日本料理協会
37	大連桜美林崇貞会	85	未生流生花教室	133	大連不動産投資
38	大連稲門会	86	大連きもの小町	134	世界成功クラブ
39	大連三田会(慶応)	87	競馬を楽しむ会	135	資産運用志隊
40	関西学院KG会同窓会大連支部	88	大連麒麟会	136	現地採用を応援する会
41	大連如水会(一橋)	89	大連あるふうの会	137	大連日本商工会
42	津田塾大学同学会	90	大連カルチャー研究会	138	大連留学生社団
43	福岡大学大連同窓会	91	将棋・象棋交流会	139	NINJAsu CHINA
44	大連同志社グローバー会	92	碁悦同舟会	140	大連リラの会
45	神奈川大学	93	中国語の練習会	141	74 年会 虎の会
46	東京経済大学OB、OG 葬会大連	94	大連日本語教師会	142	大連 82・83 犬と豚の会
47	明治大学大連会	95	IFA CHINA 大連	143	88 年の会
48	神戸大学同窓会	96	大連テーブルゲームの会	144	青春 91、92 年会
				145	大連 91 年の会

注

- 1) 日本国駐瀋陽総領事館在大連出張駐在官事務所の HP (<http://www.dalian.cn.emb-japan.go.jp/jp/index.html>) による。それによると 2011 年 10 月現在在連日本人の数は 6175 名である。
- 2) マブチモーター株式会社は 1987 年 10 月に現地法人の子会社であるマブチモーター(大連)株式会社を創立。
- 3) 大連市対外貿易経済合作局の内部資料による。2011 年までの データーである。
- 4) 「偽満洲国日本人移民用地徴購政策」(高楽才, 外国問題研究, 2011. 第一期. p5)
- 5) 1945 年 8 月まで、大連市の人口は 80 万人余りで、内日本人は 20 万 2000 人である。出所: 『大連・空白の六百日』(永富孝子, 新評論, 1986. 7. p53)
- 6) 1984 年中国国務院に認可された 14 の沿海開放都市は大連、秦皇島、天津、煙台、青島、連雲港、南通、上海、寧波、温州、福州、広州、湛江、北海である。
- 7) 中国省・自治区並みの独立した権限を持つ都市である。日本の「政令指定都市」に当たる。
- 8) 「日本企業在連投資情况的考察與研究」(王 東, 大連大学学报 vol.7, No.3. 1997. 9, p267~269)
- 9) 2006 年 4 月大連日本商工会と名称を変更した。
- 10) 関満博『日本企業中国進出の新時代-大連の 10 年の経験と将来-』(2000. 10. 新評論, p. 16)
- 11) 日本貿易振興機構(ジェトロ)大連事務所内部資料『大連市概況』2009 年 5 月による。
- 12) 以下の日本人コミュニティの名称は本論末尾の「大連市にある日本人コミュニティ団体名一覧表」を参照されたい。
- 13) 調査は、大連にある無料の日本語版マガジン「コンシェルジュ大連」、「ローカル大連」、「大連 LOOK」、「大連 ID」などの記事を参考にした。これ以外に、周囲の知合いだけの集まりで、周知されていない日本人コミュニティも存在している。実際の数は我々が捉えた数より多いであろう。
- 14) 2012 年まで大連に駐在事務所を設立した国家機関は日本国駐瀋陽総領事館大連駐在事務所、日本貿易振興機構(ジェトロ)大連事務所である。自治体は北九州市、神奈川県、新潟県、富山県、岩手県、宮城県、青森ビジネスサポートセンター、秋田県貿易促進協会、岡山県ビジネスサポートデスクなど 10 個である。地方銀行は山口銀行、福岡銀行、北陸銀行、北洋銀行、山陰合同銀行などである。
- 15) 大連剣友会会長土橋俊男氏へのインタビューによる。
- 16) 大連野球連盟鈴木川玲子氏へのインタビューによる。
- 17) 「台球」はビリヤードの意味である。「必利亜都」はビリヤードの中国語発音である。
- 18) 中国では、競馬、競輪、競艇などのギャンブルが禁じられている。
- 19) 象棋は中国式の将棋である。
- 20) 本論文末尾に添付した「大連市にある日本人コミュニティ団体名一覧表」を参照されたい。
- 21) “ホンシュエ”は中国語の「紅線」の発音からできた言葉である。「紅線」は仲人の意味である。
- 22) 2012 年 11 月の為替によれば、1 人民元≒13 円である。

【参考資料】

1. 『植民地支配と日本語 台湾、満洲国、大陸占領地における言語政策(増補版)』石 剛 三元社 2003.1
2. 『文化移民・越境する日本の若者とメディア』藤田結子 新曜社 2008.12
3. 『日本企業/中国進出の新時代-大連の 10 年の経験と将来』関満博 新評論 2000.10
4. 『在日外国人と多文化共生-地域コミュニティの視点から』佐竹真明 明石書店 2011.12
5. 『大連・空白の六百日』(永富孝子 新評論 1986.4)
6. 『検証・シベリア抑留』ニンモ, ウィリアム・F 加藤隆訳 平凡社 1991.3
7. 『大連市史(復刻版)』井上謙三郎 大連市役所 昭和 11 年(1936 年)
8. 『昭和十六年度版 関東州満人商工案内』泰東日報社 昭和 15 年(1940 年)
9. 『大連地方案内』南満洲鉄道株式会社編 昭和 2 年(1927 年)
10. 『関東局管内現住人口統計』関東局編 昭和 18 年(1943 年)
11. 「長崎大学東南アジア研究所所蔵旧植民地関係機関等刊行物について(3)-満洲国・関東州編(上)」松本睦樹; 江頭紀代美『長崎大学学術研究成果リポジトリ経営と経済』第 74 巻第 3 号 1994.12
12. 「1940 年代初頭大連日本人個人経営者の経歴について」柳沢遊 『九州大学学術情報リポジトリ』九州大学経済学会 2004.4
13. 高媛「借地メディア『大連新聞』と「満洲八景」
(http://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/academics/jogms04/4_21.pdf#search=%E5%80%9F%E5%9C%B0%E3%83%A1%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2%E3%80%8E%E5%A4%A7%E9%80%A3%E6%96%B0%E8%81%9E%E3%80%8F%E3%81%A8%E3%80%8C%E6%BA%80%E6%B4%B2%E5%85%A B%E6%99%AF%E3%80%8D)
14. 「ソ連軍政下大連の日本人社会改革と引揚の記録」木村英亮
(<http://kamome.lib.ynu.ac.jp/dspace/bitstream/10131/2581/1/KJ0000464761.pdf#search=%E3%82>

- [%BD%E9%80%A3%E8%BB%8D%E6%94%BF%E4%B8%8B%E5%A4%A7%E9%80%A3%E3%81%AE%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E6%94%B9%E9%9D%A9%E3%81%A8%E5%BC%95%E6%8F%9A%E3%81%AE%E8%A8%98%E9%8C%B2\)](#)
15. 「グローバル・シティと植民地都市-大連市の事例から-」 佐藤量
 ([http://www.dalian.cn.emb-japan.go.jp/ip/index.html](http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/kivou/19-1/RitsIILCS_19.1pp.111-115Satou.pdf#search=%E3%82%B0%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%AB%EF%BD%A5%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81%A8%E6%A4%8D%E6%B0%91%E5%9C%B0%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%A4%A7%E9%80%A3%E5%B8%82%E3%81%AE%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E3%81%8B%E3%82%89)</u>)</p>
<p>16. 「青島における日本人社会の形成と日本人会」 李勁松 『日本言語文化研究第二輯(下) 2012.5』</p>
<p>17. 「偽満洲国日本人移住用地徴購政策」 高楽才 外国問題研究 2011.第一期</p>
<p>18. 「日本企業在連投資情况的考察與研究」 王 東大連大学学报 vol.7,No.3 1997.9</p>
<p>19. 『大連市概況』 日本貿易振興機構(ジェトロ)大連事務所内部資料 2009.5</p>
<p>20. 『大連市概況』 日本貿易振興機構(ジェトロ)大連事務所内部資料 2012.4</p>
<p>21. 日本語版マガジン「コンシェルジュ大連(月刊)」創刊号(1995.8)～2012.10 号</p>
<p>22. 日本語版マガジン「ローカル大連(月刊)」2007.1～2012.10 号</p>
<p>23. 日本語版マガジン「大連 LOOK(月刊)」2007.1～2012.10 号</p>
<p>24. 日本語版マガジン「大連 ID(月刊)」2007.1～2012.10 号</p>
<p>25. 日本国駐瀋陽総領事館在大連出張駐在官事務所 HP :

 (<u><a href=))